

日照不足と低温に対する農作物の技術対策

令和元年7月9日
農業技術課

6月下旬以降、曇雨天が続いています。甲府地方气象台では今後も2週間程度は同様な天候で推移し、平年に比較して気温の低い状態が続く見込みとしています。

令和元年7月4日付け「曇雨天に対する農作物の技術対策」に基づき対策を徹底するとともに、高標高地域の水稻については低温に対する事前対策を実施してください。

1 日照不足と低温に関する山梨県気象情報

日照不足と低温に関する山梨県気象情報 第1号
令和元年7月8日15時50分 甲府地方气象台発表

(本文)

山梨県では6月28日頃から、前線や湿った空気の影響を受けやすく、日照時間は全ての地点で平年の30%を下回っています。この状態は、今後2週間程度は続く見込みです。

また、オホーツク海高気圧からの冷たく湿った空気の影響を受けやすく、今後2週間程度は平年に比べ気温の低い状態が続く見込みです。

農作物の管理等に十分注意してください。

2 最低気温の状況（7月8～9日）

地点	7月8日	7月9日
大泉 (標高867m)	16.3	16.3
河口湖 (標高860m)	14.9	14.3

(°C)

3 農作物の技術対策

(1) 水 稲

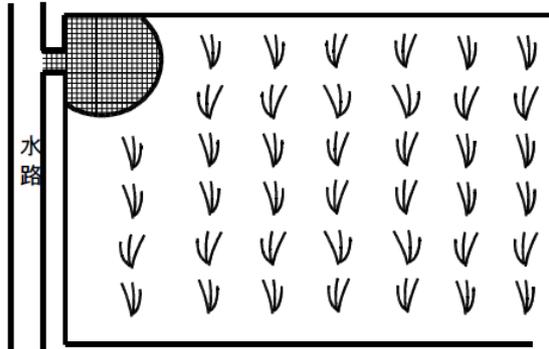
7月1日現在の水稻の生育状況は概ね平年並みで、今後、中間高冷地では7月中旬以降に幼穂形成期を迎える。

幼穂形成期（特に穂ばらみ期）に17°C以下の低温に遭遇すると、障害型冷害を引き起こす危険があるため、標高の高い地域では、水温上昇対策を講じるとともに前歴深水かんがいを実施し、幼穂を低温から保護する。

○水温上昇法

次の方法を導入し、水温の上昇をはかる。

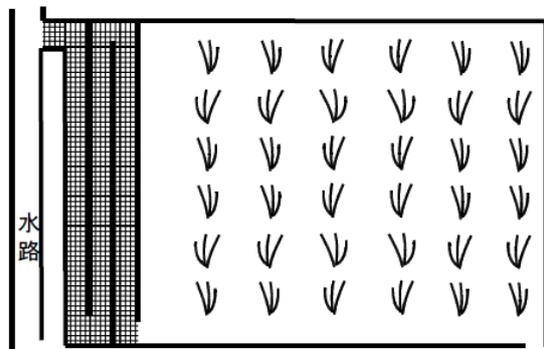
温水溜池灌漑法



直径 2 m
深さ 30 cm
ビニール被覆



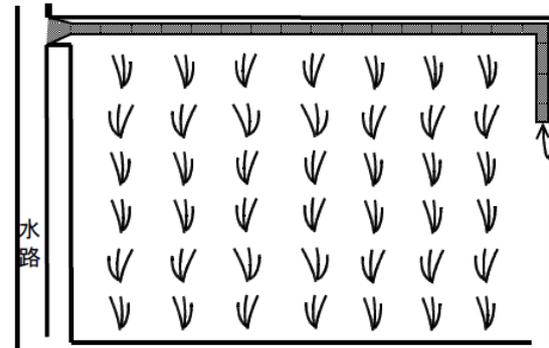
迂回ビニール灌漑法



迂回数 3回
古角材 数本
ビニール被覆
面積割合 3%

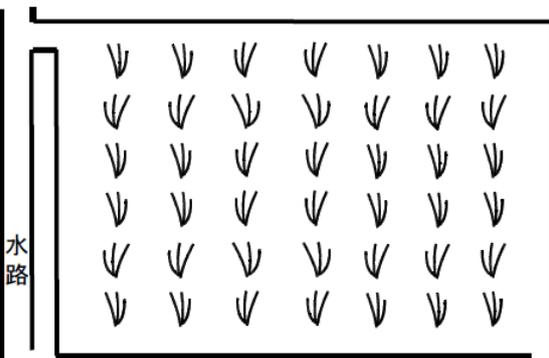


チューブ灌漑法



チューブ径 10 cm
チューブ長さ 30~40 m
水出口を時々変更する

止水灌漑法



水温が外気温より高い場合、夕方
入水し、早朝止め水とする。
(夕方入水し、2~3時間後に止水する)

